

「大名評判記」の基礎的研究Ⅱ

2006年度日本学術振興会科学研究費補助金

基盤研究（A）「日本における書物・出版と社会変容」（課題番号 17202017）

プロジェクト研究報告書Ⅱ 2007年3月

研究代表者・若尾政希（一橋大学大学院社会学研究科）

「大名評判記」の基礎的研究Ⅱ

本書は、『土芥寇讎記』の基礎的研究（研究代表者若尾政希、二〇〇四年四月）、『大名評判記』の基礎的研究（同、二〇〇六年二月）の続編であり、「大名評判記」研究の第三集にあたる。今、なぜ『土芥寇讎記』なのか、また「大名評判記」とは何か。我々の問題意識については前二書で述べたが、本書を最初に手にされる方のために、繰り返すことになるが、ここで再述しておきたい。

『土芥寇讎記』とは、元禄三年（一六九〇）段階の全国の大名二四三名について書き上げたもので、各大名の、家系・家族、略歴、居城（陣屋）、領内の様子、支配の状況、主な家老、及び大名の人柄・行跡・評判などを列挙し、論評を加えた書物である。全四三巻のこの史料（現在東京大学史料編纂所に所蔵）は、金井圓氏が一九六七年に翻刻（『江戸史料叢書—土芥寇讎記—』人物往来社、一九六七）して以来、世に知られるようになり、その地方知行の記載が驚くほど正確なことも手伝って、一七世紀末の大名を論じる際にしばしば引かれる重要な史料とされ、今日に至っている。

確かに『土芥寇讎記』は魅惑的な史料である。何よりも幕藩領主の意識・思想に迫るための絶好の史料となる可能性をもっている。しかしながら、魅惑的であるが故に、妖しげな近寄りたたい雰囲気を出している。より直接的な表現を使えば、史料として使うには、謎が多すぎるのだ。作者が誰か、一人なのかグループなのか、また編集意図は如何、等といった基礎的情報がまったくわからない。現状では、『土芥寇讎記』によりかかってこれを史料として何か言おうとすることは、きわめて難しいのである。

よって、これを史料として利用する以前に、その謎を解き明かす基礎的作業が必要である。すなわち『土芥寇讎記』の内容・表現を綿密に分析し、作者（あるいは作者たち）がそれを執筆する上で参考にした書物や、影響を受けた人物等を特定し、作者のいわば思想的基盤を掘り起こしていく研究を行っていかなければならない。こうした地道かつ困難な作業を積み重ねていくことによって、『土芥寇讎記』の作者と編集意図に迫り、『土芥寇讎記』という史料の歴史的位置を探ることができる。そのような基礎的作業＝史料批判（これを史料批判と呼ぶことができるであろう）を踏まえてはじめて『土芥寇讎記』を史料として

利用できるのである（昨年話題となった磯田道史氏の『殿様の通信簿』〔二〇〇六年六月、朝日新聞社〕は、このような基礎的作業を行わず、証拠を示すことなく『土芥寇讎記』を幕府隠密の機密報告書と断定している。この点で研究史を後退させるものと言わざるを得ない）。

さて、如上の問題意識から、我々は二〇〇三年度の一橋大学の講義「日本社会史特論」（夏学期）で、この書物を取り上げ、半期にわたり院生・学生らとグループ学習・討論を行い、その成果を『土芥寇讎記』の基礎的研究』にとりまとめた。そして、二〇〇五年度の講義「日本社会史特論」（夏学期）では、『土芥寇讎記』の十年ほど後に編まれた『諫懲記後正』という（やはり作者不詳の）書物と比較対照することによって、『土芥寇讎記』を相対化し、『土芥寇讎記』の歴史的位置を見極めようとした。その報告書が、『大名評判記』の基礎的研究』である。この二〇〇五年のグループ学習・討論のなかで、『土芥寇讎記』の前に、『武家諫忍記』・『武家勸懲記』といった、諸大名を対象にした評判記——仮に「大名評判記」と総称しておこう——が作られていたことがわかってきた。それをうけて、二〇〇六年度の講義「日本思想史特論」（夏学期）では、『武家諫忍記』・『武家勸懲記』・『土芥寇讎記』・『諫懲記後正』等といった一群の「大名評判記」を検討の対象として、グループ学習・討論を行った。その成果をとりまとめたのが本書である。

表は二〇〇七年二月末日時点における「大名評判記」の調査結果を一覧できるようにしたものである。表の見方を説明しよう。「番号」の一〇〇番台には『武家諫忍記』、二〇〇番台には『武家勸懲記』というように、便宜上、書名ごとに番号を振った。「書名」欄には書名を、「所蔵者」欄には、現在の所蔵先を記した。「国書」欄には、『国書総目録』・『古典籍総合目録』所載のものに○を入れた。「調査」欄には、調査済みのものには○を付けた。「写／刊」欄には、写本・刊本の別を記した。現存が確認されている「大名評判記」はすべて写本である。「冊数」の欄には何冊からなるのか、「巻（順序）」の欄には、その構成を順に記した。「序」の欄には、序があるものについてその名称を記した。また各大名を論評した本文の他に、附録として「国郡部類」「教法之巻」を収載している場合には、それぞれの欄に記入した。「作者・書写者欄」は、作者あるいは書写者についての情報があれば、ここに記すために、欄を設けたが、現在のところ、書写者の名前が五人程判明しているだけである。「旧所蔵者」欄は、近世における所蔵先を記した。

表を一覧すれば、『武家諫忍記』が二五部（現存を確認できるもの二二部、一

二二〇五の三部は、日録等に名前は記載されているが現存しているかどうか未詳)、『武家勳懲記』が二六部(現存確認は二二部、二一七〇二一の五部は現存しているかどうか未詳)と、この両書の数が抜き添でている。七〇〇番台に載せた『土芥寇讎記』が二部のみ——そのうち現存が確認できるのが東京大学史料編纂所蔵本のみ——であり出回ったとは言い難く、きわめて限定された読者しか持たなかった可能性すらあるのと比べると、「旧蔵者」の欄をみればわかるように、その多くが旧大名家の蔵書の中から出てきている。自ら(あるいは自分の父祖)の政治や行動等を批評した書物を、なぜ所蔵していたのか、その書物をどう読んだのか。非常に興味深い。

ところで、ここに挙げた「評判記」の他に、これに先行して、『堪忍記』(浅井了意『堪忍記』とは別物)なる書物が作成されている。深沢秋男氏が翻刻紹介されている、松平文庫本『堪忍記』(福井県立図書館所蔵)と内閣講談所本『堪忍記』(国立公文書館内閣文庫所蔵)・内閣学問所本『堪忍記』(同前)である(深沢秋男「如備子の『堪忍記』(1)」「(3)」『近世初本文芸』六〇八、一九八九〜九一)。深沢氏はこの作者を仮名字作家の如備子と見なすが、その当否も含めて、『堪忍記』と「大名評判記」との関連を問わねばならない。

作者・書写者	旧蔵者	備考	
	大聖寺藩前田家		1
	仙台藩藩校		2
坂部勝興写	坂部勝興		3
			4
	米沢藩上杉家		5
	米沢藩上杉家		6
	治城内庫		7
	太政官正院歴史課		8
	徳山藩毛利家		9
	南葵文庫	山名氏蔵書	10
	金沢藩前田家	記載内容に加除	11
			12
	刈谷藩侍医		13
			14
	岡山藩池田家		15
	岩国藩吉川家		16
	秋月藩黒田家		17
	島原藩松平家		18
	対馬藩宗家		19
	尾張藩徳川家	巻13が2冊、巻14欠落	20
今枝直方		正徳3年(1713)写	21
樋渡休兵衛	佐賀藩武雄鍋島家	『武雄鍋島家歴史資料目録(前編)』、『武家勳懲記』と合冊	22
	広島藩浅野家		23
	水戸藩徳川家		24
	弘前藩津軽家		25
	盛岡藩南部家		26
	岡藩藩校由学館		27
	昌平塾		28
	徳山藩毛利家		29
			30
	押小路家		31
			32
	刈谷藩侍医		33
	松岡文庫		34
	宮内省寄贈本		35
	大野屋惣八		36
	園部藩小出家		37
			38
		『萩市立図書館所蔵和漢古書蔵書目録』	39
樋渡休兵衛	佐賀藩武雄鍋島家	『武雄鍋島家歴史資料目録(前編)』、『武家勳懲記』と合冊	40
	佐賀藩武雄鍋島家		41
	広島藩浅野家		42
	広島藩浅野家		43
	水戸藩徳川家		44
	水戸藩徳川家		45
	高知藩山内家		46
	松代藩重臣鎌原家	小関悠一郎調査	47
庄内藩上堀季雄	『当代世談諸集大成』のうち	『藩翰譜』を引用。綱川歩美調査	48
	松岡文庫		49
	大橋氏寄贈		50
			51
			52
	仙台藩伊達家		53
			54
	松代藩真田家		55
	福井藩松平家		56
	上田 柏宗	小関悠一郎調査	57
	盛岡藩南部家		58
奥邑徳義写	竹村通央蔵書	弘化3年(1846)写	59
奥邑徳義写		弘化3年(1846)写。小関悠一郎調査	60
	上田 柏宗	601の部分	61
	盛岡藩南部家		62
	広島藩浅野家		63
			64
	広島藩浅野家		65

本書は、受講生が取りまとめたレポートからなる。未熟な点は多々あるが、今後の議論のたたき台として活用していただけたらという思いを込めて、冊子体として残しておくこととした。大方の御批判・御叱正をお願いしたい。各レポートの取りまとめに際しては特に班長に多大な労力を提供してもらった。また全体の取りまとめについては、博士課程の小川和也君(「書物・出版と社会変容」研究会幹事)の手を煩わせた。ここに記しておく。

なお、本研究は筆者が代表として行っている日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A)「日本における書物・出版と社会変容」(二〇〇五〜八年度交付予定)の重点プロジェクトの一つである。関連資料の収集・調査及び本書の作成にはこの交付金の一部を使用した。

また、資料所蔵機関には、資料の閲覧等でさまざまな御便宜をはかっていたいただきました。末尾ながら、御礼申し上げます。

二〇〇七年三月

若尾 政希

「大名評判記」調査一覧表

番号	書名	所蔵者	国書	調査	写/写	冊数	巻(順序)	序(年記)	国郡部類	教法之巻		
1	101	武家諫忍記	加賀市立図書館	聖澤文庫	○	○	写	21	目録・序并国法・18巻・教法巻	武家諫忍記序	日本国中高付	武家教法之巻
2	102	武家諫忍記	富城県図書館	養賢堂文庫	○	○	写	21	目録・序并国法・教法・18巻	武家諫忍記序	国法	教法
3	103	武家諫忍記	東北大学附図書館	狩野文庫	○	○	写	7	序并国法・18巻	武家諫忍記序	国法	
4	104	武家諫忍記	東北大学附図書館	図書館	○	○	写	21	18巻(三本木)・教法巻・序国郡	武家諫忍記序	国郡部類	
5	105	武家諫忍記	米沢図書館	興譲館文庫	○	○	写	6	序并国法・教法・18巻	武家諫忍記序	国法	教法之巻
6	106	武家諫忍記	米沢図書館	興譲館文庫	○	○	写	19	目録・18巻	(序)※1	(国法)※1	(教法之書)※1
7	107	武家諫忍記	国立国会図書館		○	○	写	21	目録・序并国法・教法・18巻	武家諫忍記序	国法	教法之巻
8	108	武家諫忍記	国立公文書館	内閣文庫	○	○	写	3	巻1~3			
9	109	武家諫忍記	宮内庁書陵部		○	○	写	21	序(日本国中)・教法・目録・18巻	武家諫忍記序	日本国中高付	教法之巻
10	110	武家諫忍記	東京大学附図書館		○	○	写	8	目録・序并国法・教法・18巻	武家諫忍記序	国法	教法之書
11	111	武家諫忍記	前田育徳会	尊経閣文庫	○	○	写	3	目録・序并国法・教法・18巻	武家諫忍記序※3	国法	教法之巻
12	112	武家諫忍記	岡崎市立図書館		○	○	写	6				
13	113	武家諫忍記	刈谷市立図書館	村上文庫	○	○	写	20	目録・教法・18巻	(序)※2	(国法)※2	教法之書
14	114	武家諫忍記	龍谷大学		○	○	写	5				
15	115	武家諫忍記	岡山大学池田家		○	○	写	5	序(日本国中)・18巻・教法	武家諫忍記序	日本国中高付	教法之巻
16	116	武家諫忍記	岩国徴古館		○	○	写	5	序・国法・教法	武家諫忍記序	国法	教法之巻
17	117	武家諫忍記	秋月郷土館		○	○	写	21				
18	118	武家諫忍記	島原市立図書館	松平文庫	○	○	写	8	國部分・19巻		國部分	
19	119	武家諫忍記	対馬歴史資料館		○	○	写	21	目録・国法・教法・18巻	(序)※4	国法	教法之巻
20	120	武家諫忍記	名古屋市蓬左文庫		○	○	写	21	目録・19巻・國分部		國分部	
21	121	武家諫忍記	金沢市立玉川図書館				写	3				
22	122	武家諫忍記	武雄市教育委員会				写					
23	123	武家諫忍記	旧浅野図書館		○	—	写		—			
24	124	武家諫忍記	旧彰考館文庫		○	—	写	6	—			
25	125	武家諫忍記	旧弘前藩津軽家				写	21	—			
26	201	武家勸懲記	盛岡市中央公民館		○	○	写	41	凡例・目録・序・配国・39巻	序(延宝3乙卯)	配国	
27	202	武家勸懲記	国立国会図書館		○	○	写	42	目録・教法・序・国郡数量・39巻	序(延宝乙卯)	国郡数量之巻	附属教法之巻
28	203	武家勸懲記	国立公文書館	内閣文庫	○	○	写	37	38巻・教法			附属教法之巻
29	204	武家勸懲記	宮内庁書陵部		○	○	写	42	目録・序・国郡数量・39巻・教法	序(延宝3乙卯)	国郡数量之巻	附属教法之巻
30	205	武家勸懲記	東京国立博物館		○	○	写	42	39巻配国之巻教法之巻共			
31	206	武家勸懲記	東京大学史料編纂所		○	○	写	9	18巻			
32	207	武家勸懲記	新潟大学附図書館	佐野	○	○	写	13				
33	208	武家勸懲記	刈谷市立図書館	村上文庫	○	○	写	12	序・配国・39巻	序(延宝3乙卯)	国郡数量之巻	
34	209	武家勸懲記	京都大学附図書館	図書館	○	○	写	2	巻1-10			
35	210	武家勸懲記	京都大学附図書館	図書館	○	○	写	2	巻28・31・32			
36	211	武家勸懲記	京都大学附図書館	図書館	○	○	写	10	序・国郡数量・教法・39巻	序(延宝乙卯)	国郡数量之巻	附属教法之巻
37	212	武家勸懲記	園部町小出文庫		○	○	写	8	目録・序・配国・39巻	序(延宝3)	配国	
38	213	武家勸懲記	栗田文庫		○	○	写	16				
39	214	武家勸懲記	萩市立図書館				写	21				
40	215	武家勸懲記	武雄市教育委員会				写					
41	216	武家勸懲記	武雄市教育委員会				写	1	巻16-18			
42	217	武家勸懲記	旧浅野図書館		○	—	写	99	—			
43	218	武家勸懲記	旧浅野図書館		○	—	写	41	—			
44	219	武家勸懲記	旧彰考館文庫		○	—	写	33	—			
45	220	武家勸懲記	旧彰考館文庫		○	—	写	33	—			
46	221	武家勸懲記	旧高知藩山内家		○	—	写	22	—			
47	222	武家勸懲記抄	真田宝物館		○	○	写	1	真田信房・真田伊賀守滋野氏信			
48	223	武家勸懲記	酒田市立図書館	光丘文庫		○	写	8	抄	安永5(1776)序		
49	224	武家勸懲記抄書	宮内庁書陵部		○	○	写	1	有馬中務大輔源頼元			
50	225	武家勸懲記巻之四五之中抜萃	中京大学附図書館		○	○	写	1	池田綱政・光仲のみ			
51	226	武家勸懲記	学書言志		○	—	写	1	抄			
52	301	諫懲記	祐徳稲荷神社		○	○	写	38				
53	401	諫懲記後正	富城県伊達文庫		○	○	写	31	総目録(元禄14冬)			
54	402	諫懲記後正	東京大学史料編纂所		○	○	写	31	総目録(元禄14春)・30巻			
55	403	諫懲記後正	真田宝物館		○	○	写	31	総目録(元禄14)・30巻			
56	404	諫懲記後正	福井市立図書館	松平文庫	○	○	写	38				
57	501	武家諫懲記後正	長野図書館	丸山文庫	○	○	写	120	序・目録・99巻・附録(目録・19巻)	序(享保19)		
58	502	武家諫懲記後正	盛岡市中央公民館		○	○	写	100	目録・叙・99巻	叙(寛保2)		
59	503	武家諫懲記(後正)	名古屋市蓬左文庫		○	○	写	3	抄(尾張・紀州・水戸)			
60	504	武家勸懲記(後正)	名古屋市立鶴舞図書館		○	○	写	1	抄(尾張・紀州・水戸)			
61	601	武家諫懲記附録	長野図書館	丸山文庫	○	○	写	20	目録・外戚傳19巻			
62	602	武家勸懲記附録	盛岡市中央公民館		○	○	写	20	目録・外戚傳			
63	603	武家諫懲記附録	旧浅野図書館		○	—	写	16	—			
64	701	土芥寇讎記	東京大学史料編纂所		○	○	写	43	目録・42巻			
65	702	土芥寇讎記	旧浅野図書館		○	—	写	—	—			

※1※2目録には「序并国法 一卷」「教法之書 一卷」とあるが、現存しない。

※3実際には『武家勸懲記』序である。

※4目録には「序并国分一冊」とあるが、「序」が現存しない。

調査欄の「—」は、目録等に記載されているのみで現存が確認できず、調査不能であることを示す。

目次

はじめに……………若尾政希 i

第一班

- 【総論】「大名評判記」の成立とは……………(文責・小田真裕) 2
- 【各論】『武家諫忍記』の創作動機と思想基盤について
——『可笑記』『可笑記評判』の影響から……………島田佳香 5
- 【各論】『武家諫忍記』諸本をめぐる試論……………綱川歩美 12
- 【各論】『武家諫忍記』成立過程の考察
——大聖寺本を中心に……………黒須あずみ 27
- 【各論】『武家諫忍記』評の成立過程
——加筆行為への注目から……………小田真裕 37

第二班

- 【総論】「国法」「教法」から探る『武家諫忍記』の作者像
——大聖寺本を中心に……………(文責・矢森小映子) 46
- 【各論】『武家諫忍記』の「序」から探る作者像
——浪人説と『徒然草』の読者……………小川和也 67
- 【各論】『武家諫忍記』国法の位置づけ……………坂口真理 84
- 【各論】『武家諫忍記』の形成過程と読まれ方を探る
——大聖寺本を中心に……………矢森小映子 94

第三班

- 【総論】対馬歴史館所蔵『武家諫忍記』の基礎的検討
——その成立事情をさぐる……………(文責・野本禎司) 102
- 【各論】「大名評判記」諸本の関係性に関する一考察
——「牢人」記述の展開と「血氣ノ勇」の否定……………野本禎司 155
- 【各論】「大名評判記」における仏教関連記述……………大橋佑季子 165
- 【各論】「大名評判記」諸本の比較検討……………杉 岳志 181

第四班

- 【総論】「大名評判記」の成立をさぐる
——『堪忍記』『武家諫忍記』『武家勲懲記』から……………(文責・望月良親) 190
- 【各論】『堪忍記』と『武家諫忍記』の比較……………望月良親 210
- 【各論】「東北大教養本」の書込み・訂正箇所を検討……………室田悠子 217
- 【各論】酒井家(庄内藩)・松山藩・大山藩からみる大名評判記……………和田雄介 227
- 【各論】『武家諫忍記』諸本の検討
——「愚評の項」の比較——「前後ノ評」……………鈴木愛 230
- 【各論】1 「大名評判記」の相互関係についての覚書……………小関悠一郎 236
- 【各論】2 近世後期における「大名評判記」の受容をめぐる……………小関悠一郎 245
- 「日本社会史特論」研究報告記録……………250
- 共同研究参加者一覧……………251